

新年のご挨拶

公益社団法人 大阪府栄養士会 会長 藤原 政嘉



明けましておめでとうございます。

会員の皆様におかれましては健やかな新年を迎えられましたことお慶び申し上げます。

平素は栄養士会に格別のご支援、ご理解をいただき、新年に当たりあらためてお礼申し上げます。

平成 28 年は熊本地方に大きな震災があり、阪神淡路大震災、東日本大震災を改めて思い出すことになりました。被害に遭われた皆様に心からお見舞い申し上げます。またリオデジャネイロのオリンピックでは国をあげて大いに盛り上がった年でもありました。

本会も今年は公益法人として 4 月には 4 年目を迎えることとなります。昨年 10 月には本会の事業が公益事業として適切に運営されているか大阪府法務課から一回目の監査を受け、現在評価されています。

本会は大阪府民の皆様の健康の維持・増進に栄養・食生活の面から援助する目的でホームページの定期的な改編や府民健康フォーラムの開催、栄養ケア・ステーションの開設など保健衛生の向上に寄与できる事業を展開してまいりました。

また、会員の皆様には「生涯教育制度」を運営し、栄養学を基盤とした栄養・食生活マネジメントに関する知識とスキルの向上を図る研修を毎月実施し、数多くの会員に参加いただいております。

特に昨年に引き続き「在宅栄養ケアスタッフ研修会」を開催し約 200 名のスタッフを養成しております。この事業は在宅療養者に対し適切な栄養ケアにより ADL / QOL の改善と重症化予防を図るためのスタッフの養成を目的として、大阪府から委託を受け実施しております。研修の成果目標は在宅訪問を含め、依頼者の立場に立った栄養ケアプログラムを作成する実をつける所に主眼をおいて、知識と技術の両面が修得できるよう実習・演習を取り入れた研修となっております。将来的には栄養ケア・ステーションのスタッフとして活躍してほしいと思っております。

本会にご周知のとおり会員の会費によって運営されております。しかし、ここ数年会員数の微減が見られ事業や予算の修正を余儀なくされています。組織の強弱は会員数が左右すると言っても過言ではなく役員一同会員増対策に奔走しておりますが、新入会や継続会員が漸減しました。この傾向は栄養士会に限らず他の関連職能団体でも同様の悩みを抱えており、同業の仲間意識や先輩・後輩意識の希薄さや情報の取得は IT の発達により十分に可能となり、会員になることへの価値観が薄らぎ、入会への意識に変化もたらせたように感じます。何れにしましても会員あつての栄養士会です。会員の皆様のご支援をいただき、一人でも多くの仲間づくりをしたいと思っております。ご協力宜しくお願いいたします。

本来、管理栄養士・栄養士は「食」を基盤とした人間栄養学を実践指導する専門職業人だと思えます。言うなれば「栄養素」に偏らない、もう少し「食」を基盤にした栄養管理が必要だと思っております。近年 NST など臨床現場で活躍する管理栄養士が多くなってきました。喜ばしいことです。しかし、「栄養素」と「食」をコーディネートするのが管理栄養士・栄養士が持っている特有のスキルです。

是非、臨床現場におきましても「食」をマネージメントできる管理栄養士・栄養士であって欲しいものです。

今年は「酉年」です。「酉」は「ゆう」と読み、口の細い酒壺を描いたものとされ、収穫した作物から酒を抽出するという意味や作物が「実」ということも表しているとも言われ、また「とり」は「とりこむ」と派生し商売に縁起のいい干支とされています。種々の課題を持った大阪府栄養士会ですが会員の皆様のご支援の下、理事一同の目配りとブレナイ会の運営により難題は解決され、「酉年」が示すように栄養士会にとっていい「実り」が来るよう願っております。

会員の皆様も栄養士会が開催する生涯教育研修会など行事に積極的に参加していただき、情報、知識の獲得とスキルアップを図ると共に、当会の運営に厳しい評価をいただければ有難いと思えます。

最後になりましたが、会員の皆様のご健勝とご活躍を祈念しまして新年の挨拶とさせていただきます。